

# U.S. Indicators

## 米国 耐久財受注のモメンタムに回復の兆し(09年6月耐久財受注)

発表日：2009年7月29日（水）

～設備投資の減少ペース鈍化を示唆～

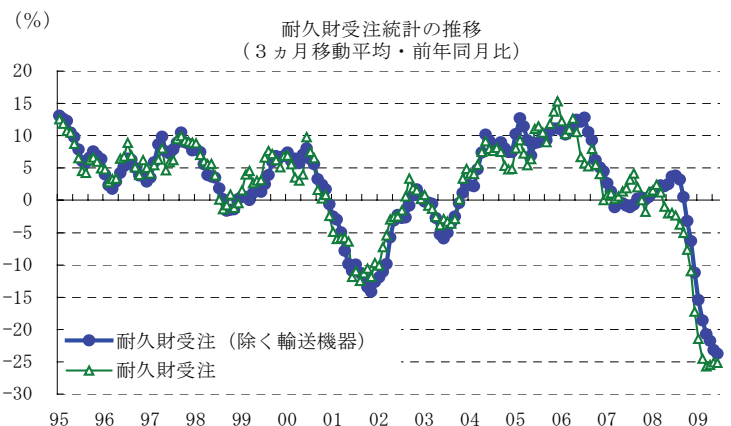
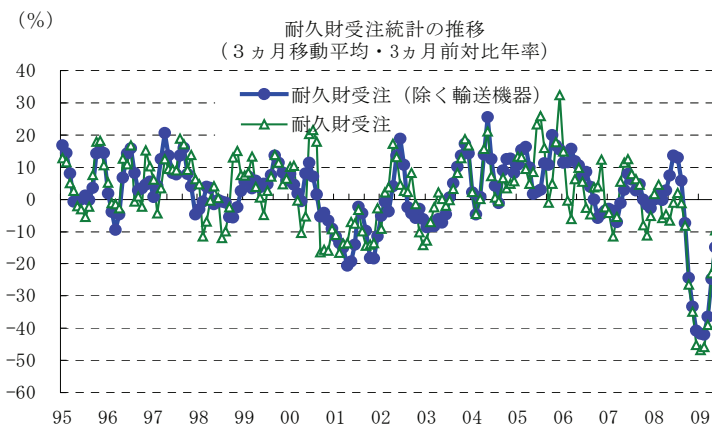
第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

03-5221-5001

6月の耐久財受注は、非国防航空機の減少によって前月比▲2.5%（前月同+1.3%）と、減少幅が市場予想の同▲0.6%を上回った。一方、変動の大きい輸送機器を除いた耐久財受注は、一般機械、一次金属の増加によって同+1.1%（同+0.8%）と市場予想の同0.0%を上回り、回復の兆しがみられる。

3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、耐久財受注が+2.0%（前月▲9.6%）と拡大に転じ、輸送機器を除いた耐久財受注が▲2.7%（前月▲14.9%）とマイナス幅を縮小しており、米国の耐久財受注は比較的速いペースで悪化幅を縮小している。



	出荷				耐久財受注				在庫			
	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器	耐久財	除く輸送機器		非国防資本財 除く輸送機器
08/10	▲3.4	▲2.8	(▲2.0)	▲3.7	▲8.5	▲6.9	(▲8.2)	▲6.7	+0.4	▲0.0	+0.3	
08/11	▲4.2	▲4.1	(▲5.9)	▲1.3	▲4.0	▲2.0	(▲9.3)	+1.1	+0.3	▲0.6	+0.0	
08/12	▲1.5	▲2.2	(▲7.7)	+0.1	▲4.6	▲5.7	(▲16.1)	▲5.9	+0.4	▲0.6	+0.5	
09/01	▲5.5	▲6.1	(▲14.8)	▲9.4	▲7.8	▲6.5	(▲20.9)	▲12.3	▲1.1	▲1.2	▲0.8	
09/02	▲0.9	▲1.2	(▲14.6)	▲0.2	+1.6	+1.4	(▲18.7)	+4.1	▲1.3	▲1.7	▲0.9	
09/03	▲1.9	▲2.9	(▲17.3)	▲1.7	▲2.2	▲2.8	(▲22.5)	▲1.4	▲1.7	▲2.0	▲1.6	
09/04	▲0.7	▲0.9	(▲19.7)	▲2.9	+1.4	▲0.2	(▲24.0)	▲3.5	▲1.2	▲1.8	▲1.2	
09/05	▲2.6	▲1.4	(▲20.6)	▲0.5	+1.3	+0.8	(▲23.0)	+4.3	▲1.1	▲1.5	▲1.1	
09/06	▲0.2	▲0.5	(▲21.3)	+0.1	▲2.5	+1.1	(▲24.1)	+1.4	▲0.9	▲1.4	▲1.1	

(出所) 商務省

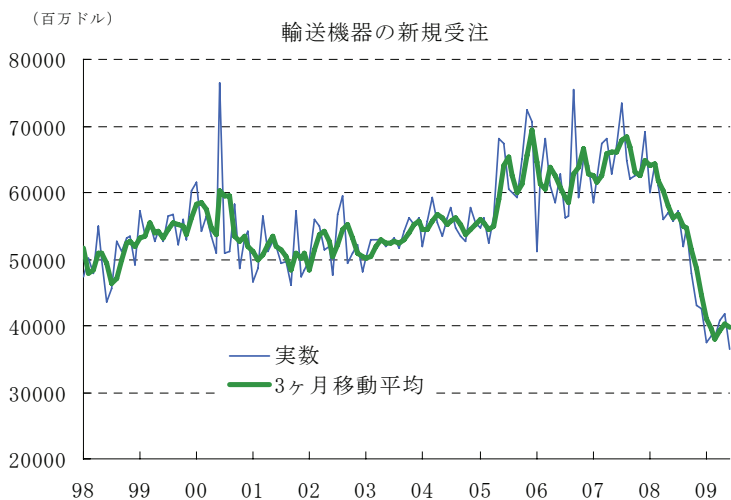
(注) 四半期は前期比、月次は前月比伸び率。()内は季節調整値の前年比。

業種別の受注動向をみると、一次金属、一般機械、電機機械関連が増加した一方、加工金属、コンピューター、輸送機器が減少した。一次金属は価格上昇による押し上げにより増加した。一般機械は、景気刺激策関連の受注が増加した模様だ。電気機器関連は、住宅建設の増加によって電気設備、家庭用機器が増加したことで拡大に転じたと考えられる。

一方、加工金属は、自動車、家電関連での需要縮小による在庫調整を背景に減少したと考えられる。また、コンピューター・電子製品は緩やかな需要の回復と在庫調整の進展により、前月比▲2.5%（前月同+

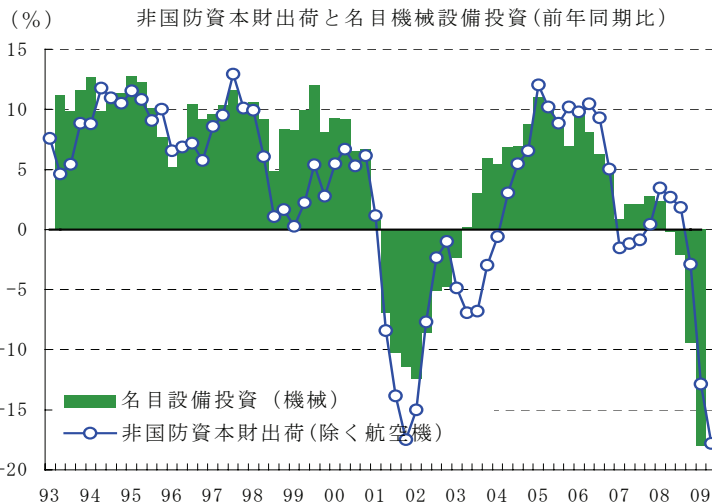
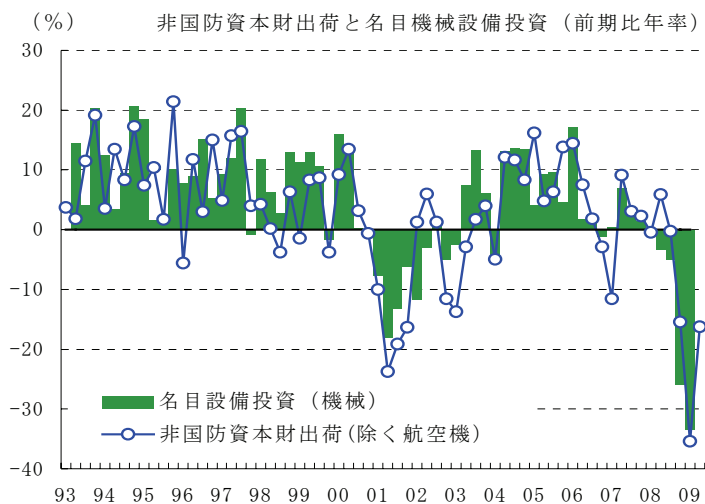
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

2.2%)と増減を繰り返している。通信設備が同▲10.8% (同▲1.4%)と減少幅が拡大し、コンピューター・同関連製品が同▲1.2% (同+15.9%)と減少した。輸送機器は前月比▲12.8% (5月同+2.7%)と3ヵ月ぶりに減少した。輸送機器の構成項目では、国防航空機・同部品が増加したが、自動車・同部品、非国防航空機・同部品が減少した。国防航空機・同部品は前月比+30.1% (同+0.3%)と補正予算の成立により増加ペースが加速した。一方、自動車・同部品は、GM工場などの生産停止の影響により前月比▲1.0% (前月同▲8.7%)と減少が続いた。非国防航空機・同部品は同▲38.5% (同+60.4%)と減少に転じた。前月にトルコ航空など景気回復に伴う航空機需要の回復を見込んだ企業からの受注によって増加した反動がでた。



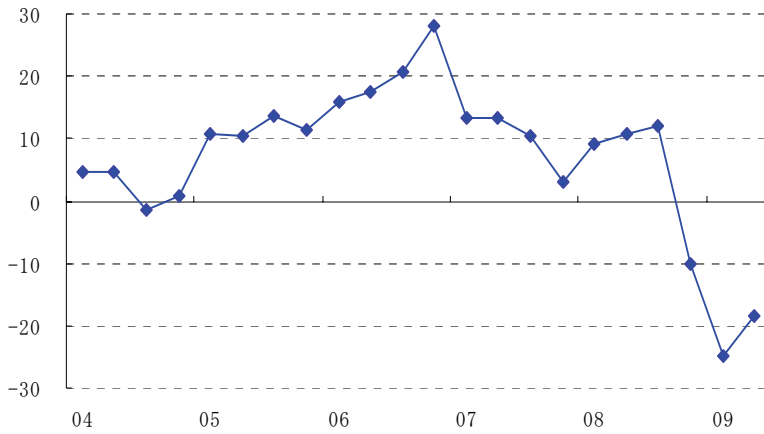
設備投資関連では、機械・ソフトウェア投資の一致指標である非国防資本財出荷 (除く航空機) は6月に前月比+0.1% (前月同▲0.5%)と増加した。4～6月期では、前期比年率▲16.2%と1～3月期の同▲35.4%からマイナス幅が縮小しており、4～6月期の名目機械・ソフトウェア投資は前期比年率でマイナス幅を縮小すると見込まれる。

また、機械・ソフトウェア投資の先行指標である非国防資本財受注 (除く航空機) は6月に前月比+1.4% (前月同+4.3%)と増加した。4～6月期では、前期比年率+0.4%と1～3月期の同▲44.2%から増加に転じた。一方、キャンセルの増加などもあり非国防資本財受注残 (除く航空機) は6月に前月比▲0.9% (前月同▲0.3%)と減少したが、4～6月期では前期比年率▲18.5% (1～3月期同▲24.9%)と減少幅を縮小していることから、2009年7～9月期の機械・ソフトウェア投資も減少幅を小幅縮小すると予想される。

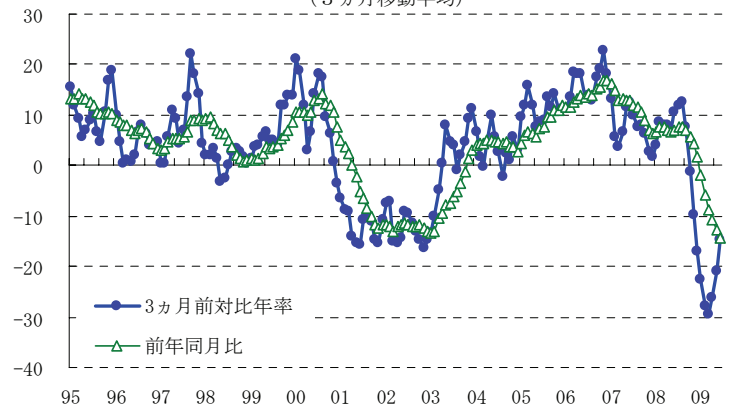


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

(%) 非国防資本財受注残（除く航空機）の推移（前期比年率）



(%) 非国防資本財（除く航空機）受注・受注残統計の推移（3ヵ月移動平均）



今後に関しては、2009年前半に世界景気の落ち込みが大きくなったものの在庫調整が進んだことから、年後半には製造業活動も緩やかに改善すると予想され、耐久財受注のモメンタムもプラス圏に回復しよう。ただし、設備投資は稼働率の低下によって過剰感が強いため2009年中の回復は難しいと見込まれることなどから、耐久財受注は3ヶ月移動平均・3ヵ月前対比年率で緩やかな拡大にとどまると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。